

平成30年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) 国補・県単

事業名		治水事業 [統一級河川整備事業(国補)]		事業箇所	富士吉田市新倉～下吉田		地区名	入山川		事業主体	山梨県			
(1)事業着手年度		H7年度		(2)事業期間		H7年度～H25年度		(3)完了後経過年数		5年		(4)総事業費	1,705百万円	
(5)事業着手時点の課題・背景						(8)事業位置図等								
<p>入山川は、富士吉田市新倉に端を発し、同市下吉田地内で宮川に合流する延長L=2.6km、流域面積4.0km<sup>2</sup>の一級河川である。</p> <p>事業区間は、計画流量70m<sup>3</sup>/sに対し、現況の流下能力は27m<sup>3</sup>/sしかなく、昭和58年8月の台風5号、平成3年8月の台風12号では甚大な被害が発生していた。</p> <p>(被害実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昭和58年8月(台風5号) 浸水家屋145戸</li> <li>平成3年8月(台風12号) 浸水家屋 98戸</li> </ul>														
(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果														
(事前評価未実施)														
<input type="checkbox"/> 主要目標 <input checked="" type="checkbox"/> 洪水被害の防止 <input type="checkbox"/> 副次目標 なし <input type="checkbox"/> 副次効果 なし														
(7)整備内容(目標達成の方法)														
<ul style="list-style-type: none"> <li>流下能力の向上</li> <li>改修延長：L=600m 護岸工 L=1,200m</li> <li>流下能力：189m<sup>3</sup>/S → 330m<sup>3</sup>/s</li> <li>治水安全度：1/2 → 1/20</li> </ul>														

2. 評価シート(1)

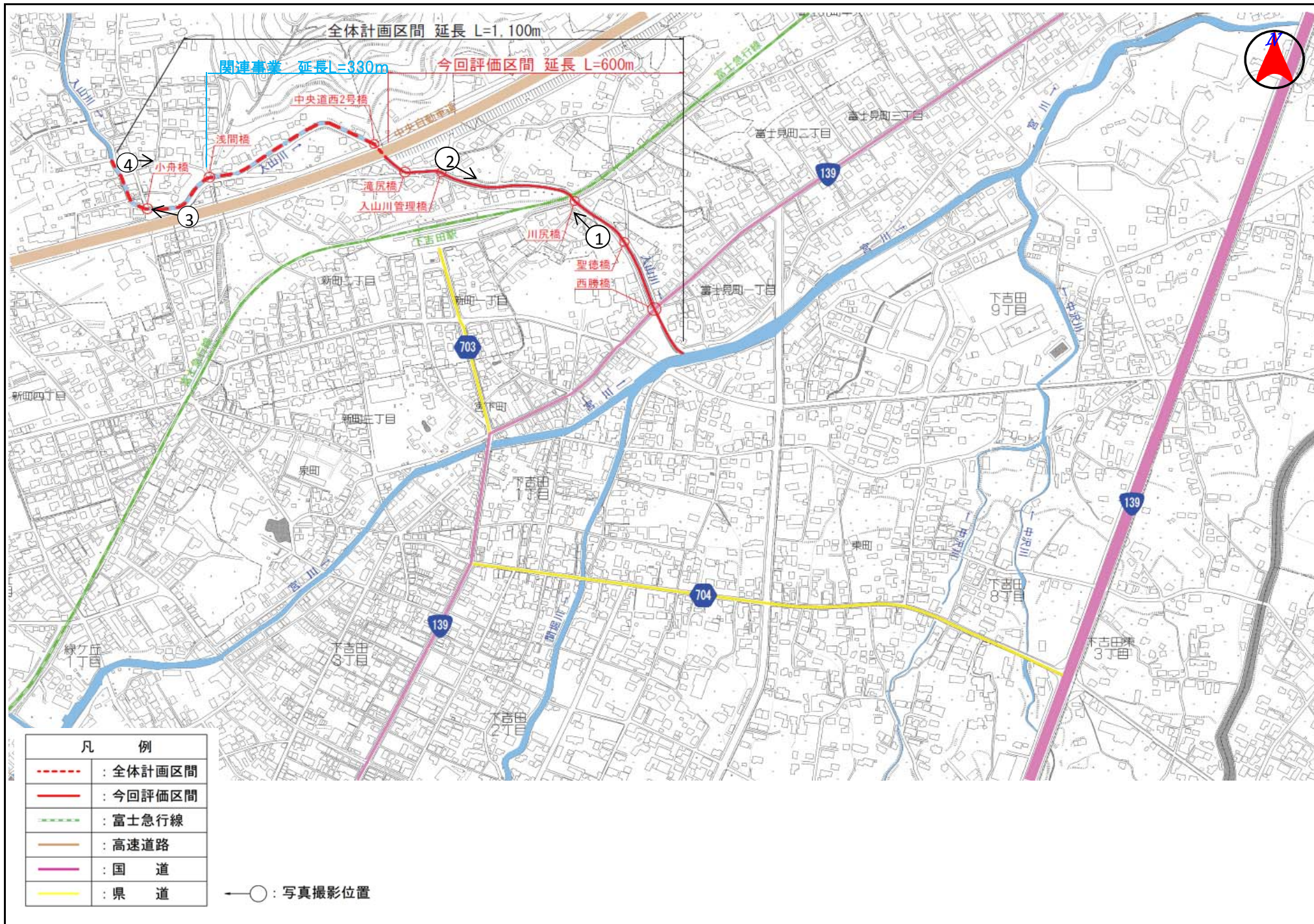
<p><b>(1)事業貢献度</b> &lt;(良)・不良&gt;</p> <p>(理由) 平成23年9月の台風15号による時間雨量75mmの降雨があったが、流下能力が向上したことにより、沿川に被害は発生せず、安全度の向上に大きく貢献している。 また、河床に植生が繁茂し良好な空間が形成されている。</p> <p>①主要目標 洪水被害の防止</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:30%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標流量に対する現況流下能力の割合</td> <td>0.38</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>浸水被害又は水防活動の実績(浸水被害)</td> <td>H3</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>想定氾濫区域内における災害発生時の影響</td> <td>聖徳幼稚園</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価 流下能力が向上したことにより、目標と同程度の降雨が発生した場合でも、沿川の被害は発生していない。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果 なし</p> <p>④その他の事業効果の発現状況 河川両岸に管理用道路が出来たことにより、生活道路として利用されている。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	目標流量に対する現況流下能力の割合	0.38	1.00	浸水被害又は水防活動の実績(浸水被害)	H3	なし	想定氾濫区域内における災害発生時の影響	聖徳幼稚園	なし	<p><b>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化</b> &lt;(有)・無&gt;</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">項 目</th> <th style="width:15%;">着手時点</th> <th style="width:15%;">再評価時点</th> <th style="width:15%;">事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,440百万円</td> <td>1,440百万円</td> <td>1,705百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H7~H25</td> <td>H7~H25</td> <td>H7~H25</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td>—</td> <td>平成21年</td> <td>平成30年</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">費用</td> <td></td> <td>1,947百万円</td> <td>3,112百万円</td> </tr> <tr> <td>建設費</td> <td>1,729百万円</td> <td>2,880百万円</td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>218百万円</td> <td>232百万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">便益</td> <td></td> <td>15,804百万円</td> <td>8,443百万円</td> </tr> <tr> <td>一般資産被害</td> <td>5,674百万円</td> <td>3,015百万円</td> </tr> <tr> <td>公共土木施設等被害</td> <td>9,625百万円</td> <td>5,107百万円</td> </tr> <tr> <td>その他※</td> <td>505百万円</td> <td>321百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C※※</td> <td>未算定</td> <td>8.1</td> <td>2.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※その他は、農作物被害便益、営業停止損失便益、応急対策費用便益 ※※費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>(要因変化の分析)  <b>総事業費</b> 地質が想定以上に脆弱であったことによる対策工費の増加      物価上昇による工事費の増加      事業区間見直しによる事業費の減少  <b>費用</b> 総事業費の増加  <b>便益</b> 事業区間見直しによる便益の減少(浸水想定区域の減少)</p>	項 目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	1,440百万円	1,440百万円	1,705百万円	工期	H7~H25	H7~H25	H7~H25	評価基準年	—	平成21年	平成30年	費用		1,947百万円	3,112百万円	建設費	1,729百万円	2,880百万円	維持管理費	218百万円	232百万円	便益		15,804百万円	8,443百万円	一般資産被害	5,674百万円	3,015百万円	公共土木施設等被害	9,625百万円	5,107百万円	その他※	505百万円	321百万円	B/C※※	未算定	8.1	2.7
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																																																						
目標流量に対する現況流下能力の割合	0.38	1.00																																																						
浸水被害又は水防活動の実績(浸水被害)	H3	なし																																																						
想定氾濫区域内における災害発生時の影響	聖徳幼稚園	なし																																																						
項 目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																					
総事業費	1,440百万円	1,440百万円	1,705百万円																																																					
工期	H7~H25	H7~H25	H7~H25																																																					
評価基準年	—	平成21年	平成30年																																																					
費用		1,947百万円	3,112百万円																																																					
	建設費	1,729百万円	2,880百万円																																																					
	維持管理費	218百万円	232百万円																																																					
便益		15,804百万円	8,443百万円																																																					
	一般資産被害	5,674百万円	3,015百万円																																																					
	公共土木施設等被害	9,625百万円	5,107百万円																																																					
	その他※	505百万円	321百万円																																																					
B/C※※	未算定	8.1	2.7																																																					
	<p><b>(3)事業実施による環境の変化</b> &lt;(有)・無&gt;</p> <p>①自然環境への影響 護岸には多自然ブロックを用い、河床部のコンクリート張を撤去したことにより、植生が繁茂し良好な空間が形成されている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況(措置を講じた場合) なし</p>																																																							
	<p><b>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</b> &lt;有・無&gt;</p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>																																																							

評価シート(2)

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉</span></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 <input checked="" type="radio"/>有・無〉</span></p>
<p>(理由) 事業完了後、浸水等被害も発生しておらず、危険度も改善され、十分な効果が得られており、目標は達成されていることから、今後の事後評価の必要性はないと思われる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法 時 期 :        年度 方 法 :</p>	<p>(理由) 河川事業の場合、沿川や流域の開発状況等を勘案して浸水被害等を防止するように効果的な一連区間の設定を行うため、事業区間や事業期間が長くなる傾向がある。 また、当区間の様に鉄道を横断する箇所があり、その構造物に影響が考えられる場合には、調査を含めた事業期間の長期化と費用が大きくなることを勘案する必要がある。</p> <p>(具体的反映策) 中長期的な事業計画を持ちつつ、一連で効果が発揮できる適切な工区を設定して、その工区毎に事業評価を受けることにより、予算管理や時間管理を徹底していきたい。</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <span style="float: right;">〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉</span></p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉</span></p>
<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 <span style="float: right;">〈 有・<input checked="" type="radio"/>無〉</span> なし</p>



### 3. 添付資料シート (1)





■ 改修前・改修後の現場写真

写真① 川尻橋（富士急行線）付近

改修前



改修後



写真② 管理橋 下流側

改修前



改修後



■ 被災状況写真

写真③  
昭和58年8月（台風5号）出水時



写真④  
昭和58年8月（台風5号）出水時

